

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

第8回 定期総会 (通算13回)

議事次第 ・ 資料等

日時 2005年6月12日(日)

午後2時00分から午後4時00分

場所 三重県名張市上三谷268番地の1

エコリゾート赤目の森 会議室

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

第8回 定期総会

資料添付リスト

議案提案

1. 2004年度の活動報告と決算報告 **議決事項**
活動報告 3ページから5ページ 決算報告6ページから9ページ
2. 2005年度の活動方針案と 予算案 **議決事項**
予算案11ページ 活動方針案 12ページ

報告事項

1. 「環境コミュニティ・ビジネスモデル事業」の取組みについて
2. 「日本最小ペレタイザーの見学会と講演会」の取組みについて
3. 「全国雑木林会議」の取組みについて

【議案 1】 2004 年度の活動方針に沿っての報告

1. 創立10周年の節目の時を立派に迎えるために、事務局が「調整役」に徹して、信用と信頼が得られるような赤目の里山を育てる会の活動を追及する。

みなさんの献身的な協力と努力の結果、環境大臣表彰を受賞することができたことを喜びたい。しかし、「ディサービス赤目の森」を巡っての認識の相違や里山保全の現場で努力している人々と事務局側で意思の疎通が充分でなかったために、理事会内での意見の相違が表面化して役員辞任、臨時総会 新任理事就任と言う事態になったことは、痛恨のきわみとして今後の取組みの教訓としていきたい。

事務局が調整役をするかどうかではなく、一人ひとりの会員さんの思いや願いを高め上げることが事務局の役割であり、そのためには会報などやITなどでの情報発信が欠かせないが、十分な取組みができなかったことを上げておきたい。また、里山総合講座などの取組みは充実したものになったが、「自然観察会」などの基本に立ち返った企画の実行はできなかった。

2. 里道の整備や草刈等の仕事から、一步進んで「里山の中味」の整備に活動の比重を転換していく。

トムソーヤ広場の大幅な除草の取組みのお陰で、赤目の里山を育てる会にとつての「大切な風景・景観」を作ることができた。それは、江戸時代の風景と呼んでもいい、素朴な風景の実現となった。つまり、「原風景」の創造に参加したということができる。一度作られた風景を維持発展させることが、「草刈からの発展」ということにつながる。あの見渡す風景の中から次の事業展開が見えてくる可能性がある。

3. 創立10周年記念事業としてのトラスト地の獲得の準備と地主さんたちとのネットワーク作りを行う。

2004年度には、新しい土地の買取りをすることはできなかった。隣辺部の買取りよりも、赤目の里山の中心部の買取りを課題としているが、そのような情報収集を行えなかった。ただ、これまでの「小規模地権者への情報発信」の取組みの結果、大阪の一地主からの土地の買取りの連絡が入ったが、調査の結果公道に面した土地ではなくて、購入しても大きな役割が期待できないものだったので、手をつけなかった。今年は、この「小規模地権者」への情報発信を他団体との協働で推進したいと考えている。その結果として「地権者ネットワーク」のようなものが作られてくれれば、大きな成果を得られる可能性がある。

4. 行政との協働の事業の推進を計るとともに、「里山保全条例」などの政策提言を実現していく。

名張市政との協力協働の側面から考えると、名張市市民活動センターの発足とともに、中間支援的な役割を果たしている。当会は名張市においては中間支援的なNPO組織として認知されてきており、センターとも様々に関わりを持ち協力の体制を取っている。しかし、2004年には条例の提案できるまでの取組みはできなかった。木質バイオマス関連の県との協働塾を発展させるような取組みもできなかった。

協働の言葉が一段落するとともに、NPOに関連する行政施策の後退を感じざるを得ず、市民活動や当会にとつての必要な協働事業を構築していく必要がある。

5. 里山での介護サービス提供のあり方を再検討していく。

理事会での事業撤退決議と新しい理事会での前議決の廃棄、事業推進という経過を経たが、赤目の里山を育てる会にとつての主幹事業として成長を続けている。日常業務への他事業所職員の見学が続くことはとても名譽なことであり、里山での介護事業が、これまでの福祉事業を提供していた人たちに大きな影響を与えているのではないかと考える。デイの利用者の多くが里山を散策し、充実した人生のバックグラウンドとして里山を利用してもらえることは、里山の保全を行っている者としてとてもうれしい状況となっている。

介護事業が発展して、職員数の拡充が行われて、その結果としての保全活動推進とは現在のところなっていないが、今年度も利用者増が続くなら、確実にその方向に向いていくと考える。
赤目の里山を育てる会として、関わる全ての人たちに「デイサービス赤目の森」の利用者獲得に協力してほしい。

6. 関係する全てのネットワークを大切に、情報公開と貴重な情報収集をして、会の発展につなげる。

名張市市民活動センターや(社)日本ナショナル・トラスト協会との協力関係は実行できた。センター運営委員を当会で派遣し、(社)日本ナショナル・トラスト協会では理事を務めている。これらの団体と上手に関わり、全国的なネットワークの構築に向けて奮闘していかなければならない。ただ、県行政の優柔不断の結果として特定非営利活動法人みどりのネットワーク三重・環境創造協会が事業を続けて入れなくなったということがあり、県内のみどりネットワーク作りの課題があらためて浮き彫りになった。



日本一小さなペレタイザーが赤目の里山に



2004年度里山総合講座閉講式のパーティー



2005年度の里山総合講座 開講日の実技習得



デイサービス赤目の森の琵琶湖日帰り旅行

2004年度 活動全記録

- 2004年 4月18日 里山保全統一活動打ち合わせ会 里山広場
- 5月 7日 赤目小学校 春の里山自然散策
8日 子どもエコクラブ 里山広場
- 6月 6日 赤目の里山を育てる会 総会
6月11日 大山田中学校 講師派遣
6月27日 里山リーダー養成講座 里山レディース講座
- 7月 3日 子どもエコクラブ
7月10日 名古屋環境塾 講師派遣
7月15日 イギリス 社会的起業家赤目の里山来訪
7月25日 里山リーダー養成講座 里山レディース講座
- 8月22日 犬山市市民活動センター講座講師派遣
8月20日~5日
9月 3日 国際ワークキャンプ 桔梗が丘高校講演
8月28日~ 里山リーダー養成講座 里山レディース講座
8月29日 夏の合宿
- 9月26日 里山リーダー養成講座 里山レディース講座
- 10月16日 鯖江市環境福井推進ネットワーク講師派遣
10月24日 関西大学社会学科環境合宿
10月27日 日本経団連環境シンポジウム講師派遣
10月30日 東海市NPOリーダー講師派遣
10月31日 里山リーダー養成講座 里山レディース講座
- 11月13日 子どもエコクラブ
11月23日 里山リーダー養成講座 里山レディース講座
11月28日 ナショナルトラスト全国大会 天神崎
- 12月23日 里山リーダー養成講座 里山レディース講座
- 2005年 1月30日 里山リーダー養成講座 里山レディース講座
2月20日 子どもエコクラブ
2月27日 里山リーダー養成講座 里山レディース講座
- 3月10日~
24日 国際ワークキャンプ 冬合宿
3月26日 赤目の里山を育てる会第7回 臨時総会
3月27日 里山リーダー養成講座 里山レディース講座

2004年度 本来事業 会計収支決算書

(2004年4月1日から2005年3月31日)

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会
金額(単位：円)

科 目		II 支出の部	
I 収入の部		1 本来事業費	
1 会費収入	329. 000	① 助成金事業費	1. 000. 000
2 寄付金収入	1. 708. 375	② 企画運営費	320. 789
3 各種助成金収入	1. 160. 000	③ 里山整備費	457. 162
4 トラスト寄付金収入	130. 000	④ 受託事業費	0
5 実費負担収入	52. 480	⑤ 介護事業費	15. 898. 571
6 受託事業収入	0	本来事業費計	17. 676. 522
7 自主事業収入	691. 351	2 管理費	
8 介護事業収入	16. 114. 249	① 図書印刷費	82. 373
9 その他収入	79	② 諸会費	78. 000
		③ 事務消耗費	54. 419
		④ 地代	60. 000
		⑤ 備品消耗費など	0
		⑥ 車両関係費	552. 430
		⑦ 出張旅費	236. 251
		⑧ 通信費	143. 018
		⑨ 広告費	137. 150
		⑩ 国際ワーク	162. 637
		⑪ 振込み手数料	38. 443
		⑫ 雑費	38. 749
		管理費計	1. 583. 470

当期収入合計 (a) 20. 185. 534

当期支出合計 (b) 19. 259. 992

当期支出差額 (a) - (b) = 925. 542

前期繰越残額 4. 729. 471

次期繰越収支差額 5. 655. 013

収入内訳

- ・ 会費 個人26. 9 永年6
- ・ 寄付金 個人100 エコ 50 労金20
- ・ 助成金 国土緑推 110
名張市 6 など
- ・ みどりの基金 5人 2. 6口
- ・ 実費負担収入 ガイドブックなど
- ・ 自主事業 講演活動 10
- ・ 子どもエコクラブ 40
- ・ 里山講座 15
- ・ 介護事業 別紙

支出内訳

単位 万円

- 助成金事業 国土緑推 100
- 企画運営費 里山講座 20
- 里山整備費 機械関係 26
- 介護事業費 別紙
- 諸会費 ナショトラ協会 5
- 地代 6万里山広場
- 車両関係費 燃料 車検など
- 出張旅費 ナショトラ大会 東京出張等
- 広告宣伝関係 年賀 伊和

2004年度 貸借対照表

2004年3月31日

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会
金額(単位：円)

科 目			
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金		1,127,913	
内訳	現金	201,877	
	郵便貯金	872,398	
	郵便振替	5,930	
	第三銀行	33,852	
	第三銀行	5,320	
	第三銀行	7,739	
	第三銀行	141	
	ろうきん東海	656	
	介護報酬未収金	2,543,110	
	仮払金	13,770	
	流動資産合計	3,684,793	(a)
2 固定資産			
① 有形固定資産			
車両運搬具	軽トラック	41,902	
車両運搬具	林内作業車	59,705	
車両運搬具	送迎車両	2,066,904	
什器備品	高速印刷機	43,712	
什器備品	木製案内看板	13,907	
什器備品	デジタルカメラ	13,383	
什器備品	コンピューター	122,002	
什器備品	ペレタイザー	827,739	
建物	ミニログハウス	458,432	
第1号トラスト地		1,501,000	
第2号トラスト地		1,000,000	
有形固定資産計		6,148,686	(b)
資産合計		9,833,479	(a)+(b) = (c)
II 負債の部			
1 流動負債			
	借り入れ金	3,126,143	
	社保預り金	59,919	
	源泉預り金	19,400	
	流動負債計	3,205,462	
	負債合計	3,205,462	(d)
III 正味財産の部			
正味財産合計		6,628,017	(c)-(d)

1. 固定資産は次の方法で減価償却計算をしている。

車両運搬具 什器備品 : 定率法

2. 正味財産の増減内訳

減少	
当期収支差額	925. 542
減価償却費計上	1. 996. 589
当期正味財産減少額	1. 071. 047
前期繰越正味財産額	7. 699. 064
期末正味財産合計額	6. 628. 017

3. 借り入れ金の内訳

エコリゾート赤目の森から立替えてもらっている。 3. 118. 548円

個人から 7. 595円 合計 3. 126. 143円

この資金は、短期借入金にある意味で該当するが、流動資金の中で、未収入金が250万円以上有るので、相殺すればそれほど大きな金額とはならない。

4. 会計は公益法人会計に準拠しているので、損益計算書はない。

収支決算書の中で、本来事業という名称が付けられているが、NPO法人決算の場合は収益事業を行った際には、決算を別にしなければならないことになっている。赤目の里山を育てる会は、定款の目的の事業を全て行っているために、収益事業の決算はない。

この収支決算書が承認されれば、貸借対照表 財産目録などを添付して、三重県へ提出する。

5. 借対照表の中にある備品や土地などは、固定資産として財産として管理している。

償却資産については、毎年減価償却費を計上し、正味財産の現在額を算出する。

ちなみに、04年度の減価償却費は1. 996. 589円で、ワゴン送迎車の償却が大きかった。

現在では、20万円未満の物品は当年の経費参入できるので、そのように処理している。

【デイサービス赤目の森の介護事業の収支前年比 状況】 単位円 2004. 04. 01~2005. 03. 31

収入	2004年	2003年
・ 介護報酬	14,086,286円 (117.4万円/月)	8,275,147円 (69万円/月)
・ 食事自費代等	1,321,762円	353,572円
・ 雑収入	706,201円	207,424円 (ホタル狩等)
	16,114,249円	8,836,143円
支出		
・ 人件費	7,266,903円(関係費62万円/月賞与1月)	3,669,935円 (31万/月)
・ 交通費	262,310円	
・ 福利厚生費	548,743円	
・ 家賃等	4,800,000円	4,775,000円 (40万/月)
・ 関係諸費	623,926円	・ 事務費 170,000円 (概算)
・ 光熱費	381,750円	・ 保険関係 100,000円 (概算)
・ 委託費	405,145円	・ 企画費用 150,000円 (概算)
・ 食材関係費	918,850円	・ 備品費用 150,000円 (概算)
・ 車両関係費	690,994円	・ 車両費用 150,000円 (概算)
		・ その他 116,184円 (概算)
	15,898,621円	9,281,119円
収支計	215,628円	収支計 -444,976円

- ・ デイサービスの事業が本格的な軌道に乗り、収入も予想に近い数字となった。
- ・ 前年との対比だが、前年は収入が少なく、エコリゾート赤目の森に光熱費や給食材料などを家賃の中に含めて経費を減額してもらっていたので、このような数字となっている。
- ・ 今年度は、全ての経費を算出し計上したが、21万強の黒字となっているが、本来の収支でみると、減価償却費をいれると赤字経営ということがいえるが、一応自分たちが生み出した金額で、事業を運営しているということがいえるので、3年目の事業としては良い方向に向いているといえる。
- ・ また、デイサービス赤目の森の常勤職員は、デイサービスの事業だけに従事している訳ではなく、事務局業務はもちろんのこと、里山の保全や来訪者の案内、助成金応募等の業務が、並行的にやられているとみると、人を養うことにより、里山を保全できるという考え方は、既に実践されているといえる。
- ・ デイサービスの利用者の継続的な利用がなかなか困難で、病気や家の都合により、利用できない状況があり、コンスタントな利用者を確保することがとても難しい。職員の体制は毎日10名の利用は受け入れる状況となっているが、現在6.5人くらいの状況で、利用者の確保に会員の協力を得て、合理的で無理無駄のない事業運営を展開していきたい。
- ・ 経費節減は、今日的な課題だ。電気のコまめなカットによる節電、風呂のガスや調理の光熱費などの合理化なども日常的に職員間で注意している。車両の金額は、冬期のタイヤの新規購入や関係車両の車検、保険など多額なものの見直しも視野に入れていきたい。

みどりの基金 会計報告 2005. 3. 31

◆ 協力者数 65名	協力者一覧 (申し込み順 敬称略)		
藤野真一 (名張)	島田つや子(西宮)	高橋章(名張)	牧村好貢(木津)
家古谷瑛子(八尾)	塚脇英明(東大阪)	山川一成(高槻)	寺家静恵(守口)
水谷康範 (名古屋)	有吉春久(名張)	中村清(名古屋)	透 典子(室生)
水谷義明 (吹田)2口	佐々木優文子1.2口(吹田)	濱崎勝美(堺)	西田宏子(生駒)
西田宏民2.4口(生駒)	文殊和美(名張)	福田和夫(木津)	石田一宏(流山)
永田昇 (豊中)	平野晴康(渥美郡)	速水敏子(大阪)	岡田光代(松原)
木下利一郎(松原)	鈴木紀(名張)	吉森加大(名張)	谷川洋一(東大阪)
松嶋欽一 (名張)	木村香代子(泉佐野)	西田一雄(京都)	ハガ武 (大阪)
ハガ制子 (大阪)	福森亮二 5口(名張)	舛次崇(西宮)	伊井野雄二(名張)
田村修市 (名張)	古川田鶴子(京都)	下川朋子(東大阪)	高田和弘(名張)
浜口秀子 (東大阪)	八島かをる (名古屋)	松本をよ(高砂)	笹尾美津子(大阪)
田郷誠之助(名張)	佐山孜 (名張)	市橋孝子(名張)	高田直俊2口(池田)
内田吉保 (名張)	前田善孝(名張)	谷川正行(名張)	市橋文子0.2口(名張)
熊本芳文 (名張)	吉田薫 (名張)	若松ズ子10口(寝屋川)	福井正樹(名張)
藤田洋子0.5口(西宮)	仲田敏0.4口(名張)	山崎忠久 (上野)	永山健二0.5口(名張)
村上豊0.2口(堺)	山岡義典 (狛江)		

今年度みどりの基金にご協力をいただいた方々です。

山上佳代子様 0.2口 村上豊様 0.2口 水谷義明様 1口 佐藤範明様 0.2口
久保克美様 1口

◆ 口数 78口

◆ 取得不動産

	第1号地	第2号地
買取日	97年2月	2000年12月
面積	2934平方メートル	1086平方メートル
住所	三重県名張市上三谷字赤坂	三重県名張市上三谷字赤坂
地目	山林	田
名義	特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会	吉森 加大
取得価格	¥1,501,000-	¥1,000,000-
手続き費用	¥10,842-	¥44,420-
トラスト地看板設置 費用	¥141,750-	
1号地舞台コンパネなど	¥75,453-	
2号地修繕・機械関係	¥110,000-	
	2005. 3. 31現在の取得整備費用合計	¥2,883,465-
	2005. 3. 31現在のトラスト資金残	¥1,016,535-

第1号地現況

- ・ コロシアムの座席周辺の草刈 倒木処理 などの実施。

第2号地現況

- ・ 昨年 地目を田から変更する手続きを行った。完了は1年以上かかる見通しで現在も進行中。
- ・ ハッチョウトンボの生息地としての池ができた。田んぼとして稲作をしたが、鹿 猪に荒らされて収穫はなかった。今年度の耕作は困難

2005年度 予算計画書 案

05.4. 1～ 06.3. 31

収 入		支 出	
1 会費収入	400.000	1 本来事業費	
2 寄付金収入	500.000	① 助成金事業費	5.000.000
3 各種助成金収入	5.000.000	② 企画運営費	500.000
4 トラスト寄付金収入	500.000	③ 里山整備費	500.000
5 実費負担収入	80.000	④ 受託事業費	1.000.000
6 受託事業収入	1.000.000	⑤ 介護事業費	17.000.000
7 自主事業収入	600.000	本来事業費計	24.000.000
8 介護事業収入	17.500.000	2 管理費	
9 その他収入	100.000	① 図書印刷費	100.000
		② 諸会費	100.000
		③ 事務消耗費	80.000
		④ 地代	60.000
		⑤ 備品消耗費など	0
		⑥ 車両関係費	550.000
		⑦ 出張旅費	300.000
		⑧ 通信費	150.000
		⑨ その他	250.000
		管理費合計	1.590.000
当期収入合計	25.680.000	支出合計	25.590.000

当期繰越差額 90.000

前期繰越残額 5.655.013

次期繰越収支差額 5.745.013

《収入部門》

- ・ 毎年の事ながら、助成金や受託事業などは、申請して勝ち抜いて得られる収入であるため、高額の金額を計上しているが、獲得できるかどうかは分からない。これまでの実績で考えている。
- ・ 特にバランスのよい収入構成を目指すために、会員増加を大きな目標としていかなければならない。
- ・ デイサービス事業利用者獲得の大きな課題を全会員のものにすることが重要。
- ・ 可能性のある助成金 受託事業にはチャレンジしていく。

《支出部門》

- ・ 04年度で全ての助成金に関して支払いを終了した。04年度で入ってきた金額を当年で支払いを完了できるかはわからないが、一応全額支払に計上した。
- ・ 従来実績を踏まえた予算計上となっている。10周年事業の特別予算は組んでいないが、自主事業内での取組みとなると考えている。(お祝い金と相殺できる範囲内での実行を追及する)

【議案 1】 2005年度の活動方針案

1. 創立10周年記念事業を実行し、全ての人とともに歩む赤目の里山を育てる会活動を実践していく。
そのために
 - ・ 来年の春に、記念事業を行い、来年の秋に「全国雑木林会議 in 赤目の森」を誘致する。
10周年記念事業「里山を考えるシンポジウム」(案)
 - ・ 里山に関心を寄せる全ての人々に対して、親しめるイベントや自然体験会などを行う。
里山リーダー養成講座 里山レディース講座 里山自然観察会など
 - ・ 地元へ依拠し、情報発信に心がけて 意思疎通が図られるような取り組みを重視する。
「里山だより」 「ホームページメールマガジン」などの発行の推進
 - ・ 育てる会の業務の分担化を計り、ステップアップした業務に変革していく。
新理事会体制での仕事の分担と会員各層の意見・要求の集約
2. 「原風景」の保持・保全を進めていくことにより、赤目の里山の植打ちを高める全面的な活動を展開する。
 - ・ 「里山の原風景」の維持・発展を迫る中で、保全活動に係る全ての事業を体系付けて、赤目の里山を育てる会の貴重なオリジナルプログラムの整備・検討・実行・総括による「磨き上げ」を行って、全てのプログラムを事業化できるような質的レベルアップを計っていく。
 - ・ そのために、里道整備などで地元の人達の信頼を獲得して、その上で「貸し借り」や「売買」などの可能性を追求して、手の入れられる「里山」の確保をするとともに、人的資産の蓄えなども同時に追求していく。
別紙 フロー図参照
3. 創立10周年記念事業としてのトラスト地の獲得を行う。赤目の里山の地主さんたちネットワーク作りを行う。
 - ・ 育てる会は「ナショナル・トラスト運動」を中心的課題として取り組む団体であることをアピールしていきたい。
そのために、10周年を記念して土地の買取りを行い、赤目の里山の大规模開発阻止の旗を高く掲げ、名張市民の「自然公園化」を進めていきたい。
 - ・ そのために、情報の収集、みどりの基金の獲得、具体的土地の交渉などの取組みを進めていく。
4. 行政との協働の事業の推進を計るとともに、政策提言できるワークショップを積み上げていく。
 - ・ 自己完結的な木質バイオマス利用ができる各種の機器を獲得する中で、行政との協働事業の具体的な提案事業を構築し、先進的な取組みを全国発信できるように特段の努力を行う。
 - ・ 政策提言の中味の議論を行い、それをワークショップ形式で積み上げて、行政とすり合わせを行えるくらいの事業化をめざしていく。
 - ・ まちづくりの中で「地域活性化委員会」との協働事業も視野に入れて、交流・懇話の道を開いていく。
5. 里山での介護サービス事業をさらに発展させて、里山の新たな可能性を追求する。
 - ・ 介護事業での利用者の熱い支持を自信として、この間積み上げてきた実績を更に発展させて、内容の充実した利用者本意のデイサービス事業を取り組んでいく。
 - ・ 里山でのデイサービス事業の取組みの枠にとらわれず、更なる可能性を追求して、里山の新たな可能性にチャレンジしていく。機器の獲得 カマド ピザ窯などの設置
 - ・ 他の団体との交流を促進し、里山での介護事業を広く情報発信させていく。
6. 関係する全てのネットワークを大切に、情報公開と貴重な情報収集をして、会の発展につなげる。
 - ・ 名張市市民活動センター ナショナルトラスト 三重県NPO関連団体などとのネットワークの構築。
 - ・ 地元「地域活性化委員会」との協力協働関係の追求
 - ・ (社)日本ナショナル・トラスト協会 環境省などとの協力協働の関係